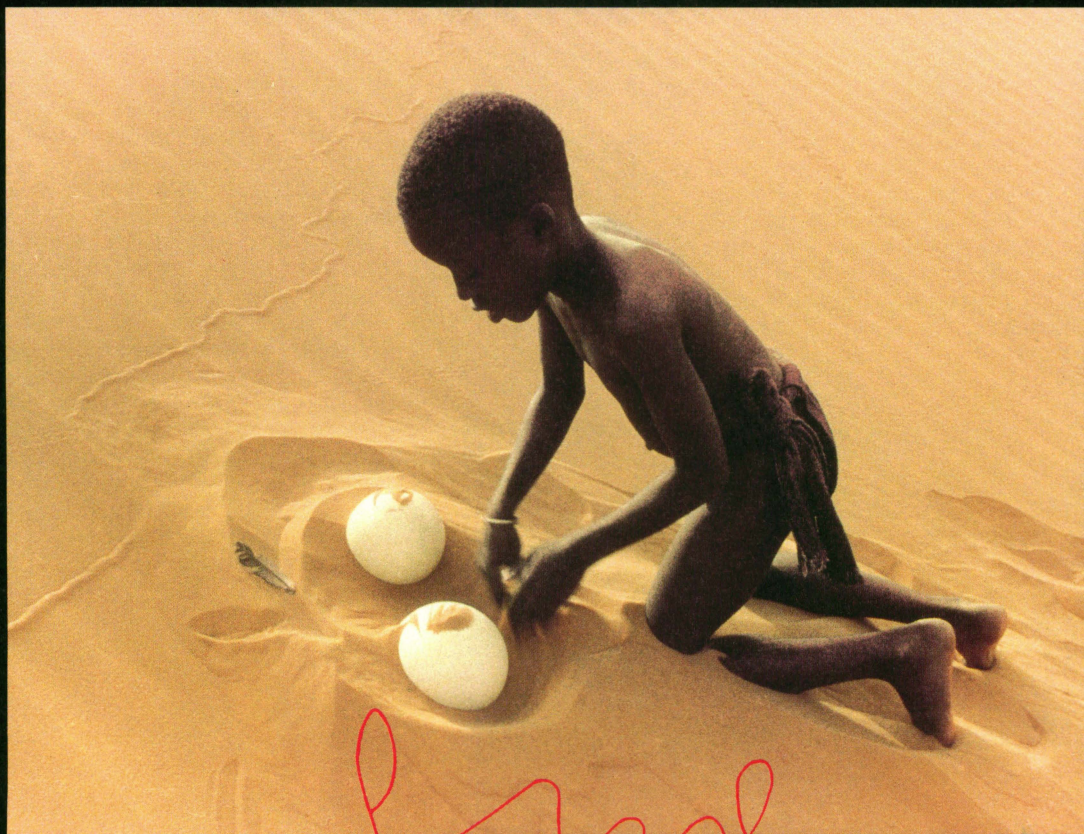


光が言った、大いなる未来が待つ若者よ
生は陽に輝き、死は星に輝くと。



砂、水、炎、そして光、地球の生命の糧によって
語られる新しいアフリカの神話。

ひかり



YELEN



1987年カンヌ国際映画祭 審査員賞受賞

製作・監督・脚本◆スレイマン・シセ

撮影◆ジャン・ノエル・フェロー／ジャン・ミシェル・ユモール 音楽◆ミシェル・ボルタル 演奏◆サリフ・ケイタ 美術◆フレデリック・デュリュ／ママドゥ・ゴラ 出演◆イシアカ・カネ／アワ・サンガレ

1987年／マリ共和国／1時間46分／配給◆株式会社 シネセゾン

●解説

「ひかり」は、幻想的であり、かつ写実的な映画である。いまだ新しく、美しい小惑星のような映画である。

その映像は「不思議な夢」のように神話を語ってゆく。未知な大地への旅の後に似て、語りが終わった後の目覚めは、全てが消えてゆき、全てが生まれてきたような不安定感と不確かさの中に、快ち良い安らぎを見つづける事ができる。

映画は子供から大人へと成長する過程での、一種のイニシエーション（通過儀礼）ともいえる旅について物語っていく。主人公の年若い青年は、様々な力を思いのままにあやつる不思議な知識を授けようとしている。父親は息子が自分と同じ力を持つことを恐れ、息子を殺そうとする。しかし母は息子を救おうと速くへ逃がす。旅の終わりに、青年は究極の魔力を持つ二つの道具を組み合わせ、新しく生まれた力で父親に立ち向かうことになる。

数々の受賞に輝く「ひかり」はアフリカのニューシネマへ昇星のように現れた、スレイマン・シセの叙事詩である。

スレイマン・シセは、1940年生まれ。モスクワで映画を学び、故郷マリで映画監督になる前は、カメラマンや映写技師をしていた。シセは自分について多くを語らない。映画が彼の自己表現の手段なのだ。彼は自分の作品に、彼の生きる社会の様相を正確に反映させたいと願っている。

「私の作品はたいていは政治的、あるいは社会的だった。」とシセは語る。こういったテーマを持つがために、彼の作品はナントやカルタージュやウワグダッグの映画祭で賞をさらってきたのだ。

「今回は、私はもっと先まで行きたいと思った。幻想的な物語を作ることができないのか？ 地球上に生きる誰もが興味を持つような作品を…」シセ自身もマリで生まれ、現在はパリに住んでいる。

[ジュンヌ・アフリック]誌 87.12.18号 by フェリッド・ボージェティール
叙事詩であると同時に精神世界を反映させた作品であることで、「ひかり」は様々な異なった解釈を許している。権力と知識を持ったある世代が、それを台頭する新しい世代に譲ろうとしない現代アフリカの政治的寓話ともとれる。だが同時に人間とその科学・知識の使い方についての、あるいは名誉や誇りを守ることの必要性、押し付けられた言語に対して果して忠実であるべきかどうか、あるいはまた相互の尊敬という旗印のもとに人間関係を規制する法体系についての、宇宙的かつ哲学的な冥想でもある。さらには子孫の自由のために、ある世代が犠牲にならざるを得ないことについての…。



ひかり

87年カンヌ国際映画祭 審査員賞受賞

87年ベルガモ映画祭 CAMUNA D'ORO賞受賞
87年バリアドリ映画祭 "銀の魂"賞受賞

●キャスト

ニヤナンコロ—— イシアカ・カネ
アトゥ—— アウ・サン・ガレ
父・ソマ—— ニヤマン・サノゴ
母—— クンバ・トラオレ
叔父・パフィン—— イスマイラ・サール
ボールの王—— パラ・ムサ・ケイタ
コモの首長—— コケ・サン・ガレ

●ストーリー

今から何千年もの昔、アフリカのどこかでの物語——。
「コモ」の秘密結社のメンバーで恐るべき魔力を操るソマは、一人の男を殺そうと国中を探し回っていた。その男とはソマの妻の息子ニヤナンコロだった。

ニヤナンコロは父親と同じ魔力を持っている為に父から追われ、母と共に十数年もの間逃亡生活を送っていた。母は息子に、盲目の叔父ジギを尋ねるように命じ、叔父に渡すように魔法のクリスタルを息子に委ねた。

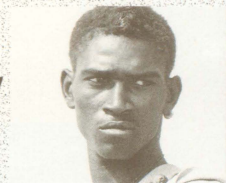
ソマは、息子を探す為に魔法の柱「コロカラニ」を二人の召使に運ばせていた。それは失踪した者を見つけ出し、裏切り者や偽証した者を罰するのに使われる道具だ。

ニヤナンコロは旅の途中、羊泥棒と間違われてボール族の兵士に捉えられた。彼を罰しようとしたボールの男を、ニヤナンコロは逆に魔法の力で金縛りにしてしまう。それを見たボールの王は、彼に折から攻めてきた敵を倒し、国を救ってくれるよう頼む。ニヤナンコロは魔力を使い、蜂や火を呼び出して敵を追い払った。王は年若い妻アトゥの病を治療してくれと言う。だが治療の儀式の最中、二人の若者は恋におちてしまう。王は二人を許し、ニヤナンコロにアトゥと剣を授けた。二人はボールの国を後にした。

一方、ソマは「コモ」の賢者たちを尋ね、息子がバンバラ族に古くから伝わる呪物を奪い逃亡したと訴えた。賢者たちは彼をなだめようとするが、ソマは「息子が剣の刃なら、わしは剣の柄だ。どんなに鋭い刃でも柄は切れぬ」と、その決意の強いことを述べる。

ニヤナンコロとアトゥはついにバンジャガラへたどり着き、一族の王に老人ジギに会う許しを請う。ジギは若い二人に不思議な予言を聞かせる。すなわち「災いがわれらの国をおおう。われらの子孫は大いなる変動を耐え忍び、やがては奴隷となるだろう。彼らは自らの人種と信仰を否定することになるだろう。だが、いつかはその災いが転じて進歩をもたらすことになる。人は生き続ける為に死ななければならぬ」と。

YEELLEN



ひかり公開記念

5月7日(土)より、初回到短篇『ムニユムニ』を併映予定。(11:20am開映)
〈「ひかり」のメイキング・フィルムで、ムニユムニとは「カメラが回る」という意味〉詳しくは劇場までお問い合わせ下さい。

4月29日 祝 公開

前売券1,200円発売中
(当日一般1,500円・学生1,300円の処)

●前売券は、都内各プレイガイド、チケット・セン、チケットぴあ、セゾン系各劇場他でお求め下さい。

運 日		全のみレイト	
12:00	2:20	4:40	7:00
		夜9:20	

●自由席定員制・入替制

シネ・ヴィヴァン・六本木

地下鉄六本木駅下車1番出口 WAVE地下1階
お問い合わせ ☎03(403)6061